

科目名	身体機能評価学演習 I			ナンバリング	ASE246	授業形態	演習
対象学年	1 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	佐藤真一	担当教員	○佐藤真一				

授業の概要	作業評価学の講義を基に、関節可動域や筋力の具体的な検査・測定方法について演習を中心行い、関節可動域と徒手筋力検査の技術を学ぶ。本演習において学生は、2人1組ペアとなり教員によるデモンストレーションと体験的演習を行い、評価技術の知識と実践能力を修得することを目標とする。		
到達目標	1. 関節可動域測定の意義と目的を説明できる。 2. 関節可動域測定を実際に行うことができる。 3. 徒手筋力検査の意義と目的を説明できる。 4. 徒手筋力検査を実際に行うことができる。 5. 身体機能評価に必要なリスク管理を行うことができる。		
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	対象者の障害を理解するためには、身体機能を正確に把握することが重要です。検査・測定方法と併せて必要な予備知識を習得することによって、体系づけられた効率的な学習を進めていくことができるでしょう。		
ディプロマポリシーとの 関連	【健康医療科学部作業療法学科ディプロマポリシー】		
		1	広い視野と豊かな教養に基づき、健康の維持・増進およびリハビリテーション専門職の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。
	○	2	地域に住む孤立しがちな人びとや、心身および生活上の障害を抱えた人びとの個別な健康・医療課題を的確に把握し、子どもから高齢者に至るまでその人らしく生活できるように、その生活支援や就労支援を行うことで、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。
	○	3	健康・医療に関わる課題を解決するために、作業療法の専門的な過程を用いて根拠に基づいた科学的思考が展開でき、優れた作業療法技術を駆使して生活能力の再獲得への支援ができる。
		4	健康・医療に関わる作業療法の専門家として科学と健康・医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的且つ能動的な学修ができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 関節可動域測定のための基本軸・移動軸・測定肢位を説明できる。 2. 関節可動域測定の参考角度を説明できる。 3. 関節可動域測定の知識・技術を身につけることができる。 4. 徒手筋力検査の手法を説明できる。 5. 徒手筋力検査を行う際の患者への指示を言うことができる。 6. 徒手筋力検査の知識・技術を身につけることができる。 7. 身体機能評価に必要なリスク管理を説明できる。	1. 検査・測定を行う際の注意点を説明できる。 2. 被検者になった際に、検査・測定を実施するに際してどのような点に気をつけるべきかということを理解できる。 3. 健常者のデータと比較して、障害の状態を理解することができる。 4. 検査・測定の結果によって、患者にどのような活動上の制限があるのかについて理解することができる。 5. 身体機能評価に必要なリスク管理を説明し実施できる。

成績評価観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
評価方法							
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	●		●	●	●		60%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加			●	●	●		40%

課題、評価のフィードバック	manabaによるフィードバックを行う
---------------	---------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	関節可動域測定 の概要	関節可動域測定 の目的と測定方法および測定中のリスク管理について学ぶ。	
	第2回	関節可動域測定①(肩関節・肘関節)	肩関節・肘関節の基本軸・移動軸・測定肢位等について学ぶ。	
	第3回	関節可動域測定②(手関節・手指)	手関節・手指の基本軸・移動軸・測定肢位等について学ぶ。	
	第4回	関節可動域測定③(股関節・膝関節)	股関節・膝関節の基本軸・移動軸・測定肢位等について学ぶ。	
	第5回	関節可動域測定④(足関節・足趾)	足関節・足趾の基本軸・移動軸・測定肢位等について学ぶ。	
	第6回	関節可動域測定⑤(体幹・その他)	体幹の基本軸・移動軸・測定肢位等について学ぶ。その他の測定法について学ぶ。	
	第7回	関節可動域測定 のまとめ	リスク管理の確認と関節可動域測定 の習熟度を確認する	
	第8回	徒手筋力検査 の概要	徒手筋力検査 の目的と検査方法について学ぶ。	
	第9回	徒手筋力検査①(肩甲骨)	肩甲骨周囲の筋の検査について学ぶ。	
	第10回	徒手筋力検査②(肩周囲)	肩周囲の筋の検査について学ぶ。	
	第11回	徒手筋力検査③(前腕から手指)	前腕から手指の筋の検査について学ぶ。	
	第12回	徒手筋力検査④(股関節周囲)	股関節周囲の筋の検査について学ぶ。	
	第13回	徒手筋力検査⑤(膝関節から足関節周囲)	膝関節から足関節周囲の筋の検査について学ぶ。	
	第14回	徒手筋力検査⑥(頭頸部・体幹)	頭頸部・体幹の筋の検査について学ぶ。	
	第15回	徒手筋力検査 のまとめ	リスク管理の確認と徒手筋力検査 の習熟度を確認する。	
	試験	関節可動域測定と徒手筋力検査について、リスク管理に留意しながら標準的な手順で実施できるか、実技試験を行う。		
授業の進め方		実際に2人1組のペアでの実技を行いながら進めていき、当分野におけるリスク管理を交えながら学ぶ。		
授業外学習の指示		事前に教科書で授業内容にかかるテーマについて予習しておくこと。授業後に検査・測定の実技をグループで確認しあいながら進めていくことを勧める。 (授業外学習時間: 毎週 60 分)		

教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学(第3版)、能登真一他編、医学書院、5,800円(税別)、ISBN978-4-260-03003-8 新・徒手筋力検査法(原著第9版)、Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery著、協同医書出版社、8,100円(税込)、ISBN978-4-7639-0038-8
参考書	なし
参考URLなど	なし
その他	